

事例 : No. 8

組合員のための低コストで効率的な素材生産

1. 林業事業体等名 こだま森林組合（埼玉県児玉郡神川町）

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 3, 980 m³（うち 間伐の占める割合 80%）
②生産する主な樹種 スギ
③素材生産に関わる作業員数 9名（1セット3名×3セット）

3. 取組の特長

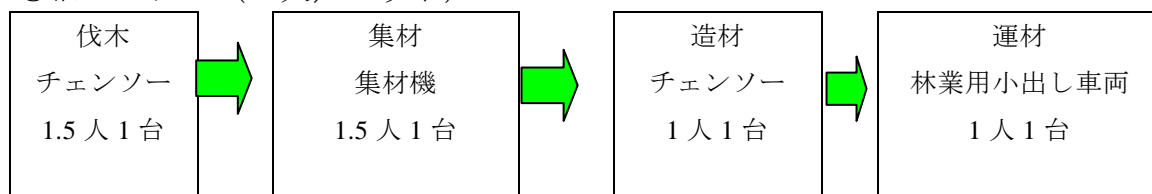
- ・作業道を中心とした団地化により、コスト低減を図るため路網整備に積極的に取り組んでおり、林道を含めた地域の路網密度は 32.5m/ha に達している。
- ・伐採現場から土場までの搬出機械として、走行性能に優れ、荷台が両側方及び後方に傾き迅速な荷下ろしが可能な四輪駆動の林業用小出し車両を導入し、土場のはい積み工程の大幅な短縮に努めている。
- ・スイングヤーダは、巻取り時の偏りを防ぐための胴巻き角度の変更や巻取りワイヤ脱落防止のためのフランジ取り付けなど現地の作業条件に合わせて改良し作業効率の大幅なアップにつなげている。
- ・中古のスキッダを導入し、注文材の搬出に使用して効率向上につなげるなど、トータルで搬出コストの低減に取り組んでいる。

4. 具体的な内容

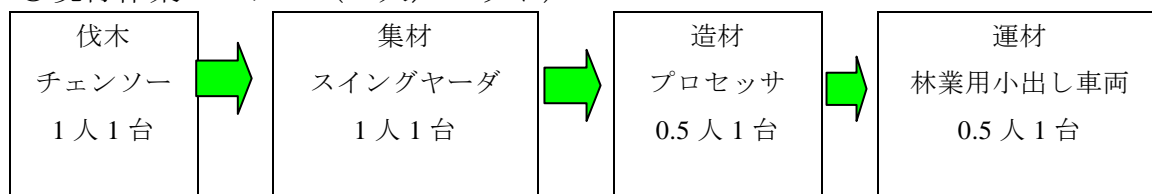
- ① 施業方法：計画的に作業路網を整備するとともに、高性能林業機械を積極的に活用し、安全で効率的な施業を目指している。
- ② 使用機械：スイングヤーダ 3 台、プロセッサ 1 台、スキッダ 1 台、
タワーヤーダ 1 台、林業用小出し車両 1 台、
グラップル付きバケット 2 台

③ 作業システム：

○旧システム（5人／セット）



○現行作業システム（3人／セット）



④作業路作設方法：林地荒廃を防止し開設経費や維持管理費を抑制できるよう、あえて森林育成の適地（緩傾斜地等）に計画し、さらには森林所有者が軽トラックで利用しやすいよう緩勾配で開設する。

⑤労働生産性及び素材生産コスト：

	旧作業システム		新作業システム	
利用間伐	労働生産性 ($\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}$)	素材生産コスト ($\text{円}/\text{m}^3$)	労働生産性 ($\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}$)	素材生産コスト ($\text{円}/\text{m}^3$)
	2.5～3.5	9,000～11,000	3.5～5.0	5,000～8,000

※原木市場等までのトラック運送費を含む

5. 今後の取組等

- ・「伐って・使って、植えて、育てる」を基本としながら、組合員との信頼関係の構築を重視し組合員への収益還元拡大を目指している。今後も、素材生産経費の削減に積極的に取り組むとともに、原木販路拡大を図っていきたい。
- ・作業路開設・補修を中心とした施業集約化により、皆伐・利用間伐を推進し、国内における国際競争を意識した原木の生産・販売の拡大に努める。
- ・GIS及びGPS装置を活用した境界明確化等地域の森林情報収集にさらに力を注ぎ、組合員、森林所有者へ森林施業の提案を積極的に行う。



【プロセッサによる造材】



【林業用小出し車両による運搬】

【報告者】

埼玉県 寄居林業事務所
担当部長 白藤 久雄